特集

共に歩いて

―学校支援地域本部―

問合せ　生涯学習課☎㉚9204

そこは、授業中の教室。先生が教科書を広げ、授業をしています。教室の中には、さまざまな個性をもつ子どもが集まり、授業を受けています。

「一人一人を大切に育てたい――」。

そんな思いを持って子どもを支えるもう一人の先生がいます。それは、学校周辺の地域の人が中心となって組織した、「学校支援地域本部」で活躍するボランティアの方たちです。学校支援地域本部はいわば、「地域につくられた学校の応援団」です。

今月は、学校と地域をつなぐ活動の輪を紹介します。

阿品台東小学校１年生国語の授業風景。この日はボランティア２人が加わり、先生が朗読する絵本を聞いて、児童たちは自分の好きな場面を書いていました。

子どもを取り巻く環境が大きく変化する中で、これからの教育は、これまで以上に学校、家庭、地域の連携と協力のもとで進めていくことが不可欠となっています。

そんな中、廿日市市では平成21年度からスタートした「学校支援地域本部（以下「支援本部」）事業」。地域や保護者の力を組織化し、学校を支えることを通して地域の教育力を再構築するだけでなく、教員の負担を軽減して子どもと向き合う時間を増やすことにもつながっています。

学校支援ボランティア（以下「ボランティア」）は、学校からの要請を受け、教室に入り学習の支援を行います。

支援の方法はさまざまで、授業の見守りや本の読み聞かせ、校外活動の付き添いなどがあります。多くの知識や経験を持つ地域の大人が関わり、子どもたちを見守ることで、よりきめ細かな教育を行うことができます。

支援本部が大野中学校区でスタートして5年。現在では市内に9つの支援本部（9ページ、設置本部一覧参照）が置かれ、学校が近くて入りやすい場所になり、ボランティアと児童・生徒、ボランティアと学校、ボランティア同士などさまざまなつながりが生まれています。

case1.学校長

学校と地域の双方向の喜びでつながりが深まっています

学校では、どの教科も個に応じた指導を目指し、授業を行っています。しかし、担任１人では、家庭科や図工・体育や習字など、実技を伴う活動に対するきめ細かい指導や支援が難しいときがあります。そんなとき、児童はボランティアの方からのちょっとした励ましの声掛けやアドバイスで意欲をもったり、コツをつかんだりして取り組むことができています。また、ボランティアの皆さんも児童と関わることに喜びを感じてくださっていると聞き、本当に嬉しく思っています。

平良小学校校長
佃（つくだ）　恵子（けいこ）さん

case2.教師

阿品台東小学校教諭
下桶（しもおけ）　千恵美（ちえみ）さん

見守られる中で学んでいます

私は現在１年生を担任しています。中にはまだ授業や学校の環境に慣れず、授業の準備が遅れる児童もいます。そんなとき、そっとそばで見守ってくださるのが、ボランティアの方です。児童一人一人に適切な指導をすることは私たち教師の仕事ですが、見守ってくださることで子どもたちの理解が進めば授業の進捗状況も違ってきます。子どもたちは、たくさん褒めてもらい、たくさんの声を掛けてもらうことで意欲的に学習に取り組んでいます。

case3.生徒

地域の大先輩から教わるものは多いです

大野中では家庭科の授業や放課後の学習会などにボランティアの方が入られています。放課後の学習会ではとても丁寧な教え方をしてくださるため、素直に聞くことができます。家庭科では郷土料理の「もぶり飯」や特産の「アサリご飯」を教えてもらいました。ほかにも大野の昔ばなしなど、私たちが生活している地域の大先輩からのお話を聞き、自分の住んでいる大野のことをもっと好きになりました。これからも勉強や地域のことをもっと教えてもらいたいです。

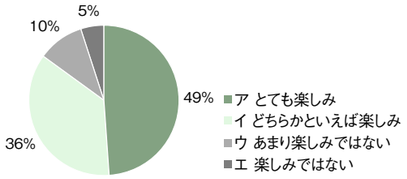
大野中学校3年
越水（こしみず）　巴菜（はな）さん

何をもたらすか

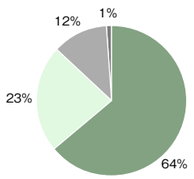
学校支援ボランティアが教室に入ることで、
学校にどんなことをもたらすのか。
学校長・教師・生徒―。
それぞれの立場から見た学校の今を聞きました。

児童・生徒回答

問．地域の人と一緒に学習したり活動したりするのは楽しみですか。

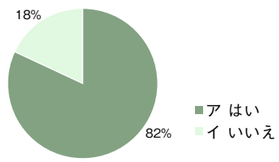


問．自分の住んでいる地域のことが好きになりましたか。

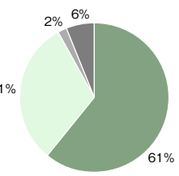


教職員回答

問．担当する業務（授業や補習など）の中で「学校支援地域本部」の支援を受けているものはありますか。



問．「学校支援地域本部事業」による効果を感じていますか。



※平成25年2月から3月に大野中学校区・友和小学校区・大野東小学校区・佐方小学校区で行われた学校支援地域本部事業アンケート結果